一休諸國物語

へ13
3379
1

へ13
3379
1

一休法國物語　序

文化財
大正十年八月発行
本大學出版部

竊に愚なるこゝろをもひろめんく。愚のうちにも
かしこきもの。あらんとして。和らの世のこゝろとも
入つゝ見んびのあらんかぎりの世の波うちたゞふ。
一瓢のうさうちひろうもの中の人の
こゝろはうけの。那波入江のうの藻
かゝるあれもうやそいとも見しうきとも
さわぐ。こゝろわるとなら。
こゝろ世とうし。因名ゝるのうの書こゝ類
ありていとも。光もかゝる実なるなり。

一休法國物語巻一目録

第一　一休途中ふかく欲の物の事
第二　専光寺あり武并一休落書の事
第三　一休住あの事
第四　同あるまの事
第五　同十七歳の時遠中にて導の事
第六　墨山寺年頃歌を詠ぜと勅事
第七　一休開示の事
第八　同女と見て礼ねしの事
第九　同閑塗にて屏風に折付出の事

卅十　卒都婆と一休ゆあり法の事

卅十一　一休ゆんごくとすあるの事

卅十二　乞野弘助一休とゆ入べ事

卅十三　死てゆけざる所を力まち并一休ゆるく

又と出るゆふ魚ゆ〻ふ事

卅十四　一休へうゆ嶽多と申す社方のす

卅十一　一休途中にて永乃紙束しの事

○とゆ家ゆ家屋とうとゆのわり問し一休和

尚のたゆもとさ事のおゆ今ぶさとうとを海

とう川ぞへひしゆ野へまいり何とそゆ

らとさゆとうのゆうへんさゆくもひ方へ永よゆ

へべきとか○ぐ〻ゆ和尚ゆ那ぐよ

ゆとうとう法ゆよ山人途中にゆさあひ和

一うんの不ゆ御問ゆかりのゆ法ゆぐく

なぐゆとうくし海月ずゆ問ゆうあさ

ゆとゆ御門ぐ人法ゆとうんぐ寺ゆ問ゆ

へ何ゆいてゆしべきゆうゆ

ゆくゆ問ゆうゆとゆ和尚ゆ

ゆゆゆとうとうゆ

人ゆゆゆ法所ゆとゆ

いひたてくらすさま。一休やがて出ていひ相あ
くる四日さうそんしらせのやどとこれ
祝ごとのもてなしのもてなしあるまつのくぶんせま
ちいさなるとうりくとをもう。一休もとのやど
さうそんいわを一くせあるものなりぢいさまあさ
とうるぶこなるいろんすかとおもひやどてうらに
入ぬるがうへざいまのくらまだのうとをもう。か
ねざいうとうるぶ。ゆうていしわ出合さそく
今日いとりも祝ひくれ。ひさなりぶれわ
うとをもうんせんそくまつ。一休いやくしぐ
今ふとうくまりのゆ。すこしもうしかすと
祝ふるぶでいわさそくやいくいさしうり
とおもひ。相腦とうしらへごうさんぶもわうと入ふ
うとうくぶと。ゆうは一休てくうとあもそくんを入

ものなり。和尚はいとなつかしき
のらていしのざこそ。一休はいとうれし
さとうしく。今日のさいはいは三七百すくひとは
あるべし。新しいかんじ入をる。梅一休ざこそ
うらやましけていとなかとうしうんうて。銭
百文とり出。是八今日の布施よ。すつ。是へうう
ぞうこのあるうし。御ようりあまとり。一休さ法ひ
ようにも是すくうをきりいやもとき事也。
さらなをぞにこ面つらのへと作うあまとだて
いしもいうくうんぐ。梅御門だうあ面ぞとびうう
ちうはどうはそうくうもしあ面と。元人はたづくたあ
んーうとおとよ。いまごこもとさもひさのもどうう
よ。ぞあもかく作うあぞさそもくた人うまこかうあ
御ようさ面やとぞうんしもろ

第二　専光寺の事　一休為書の事

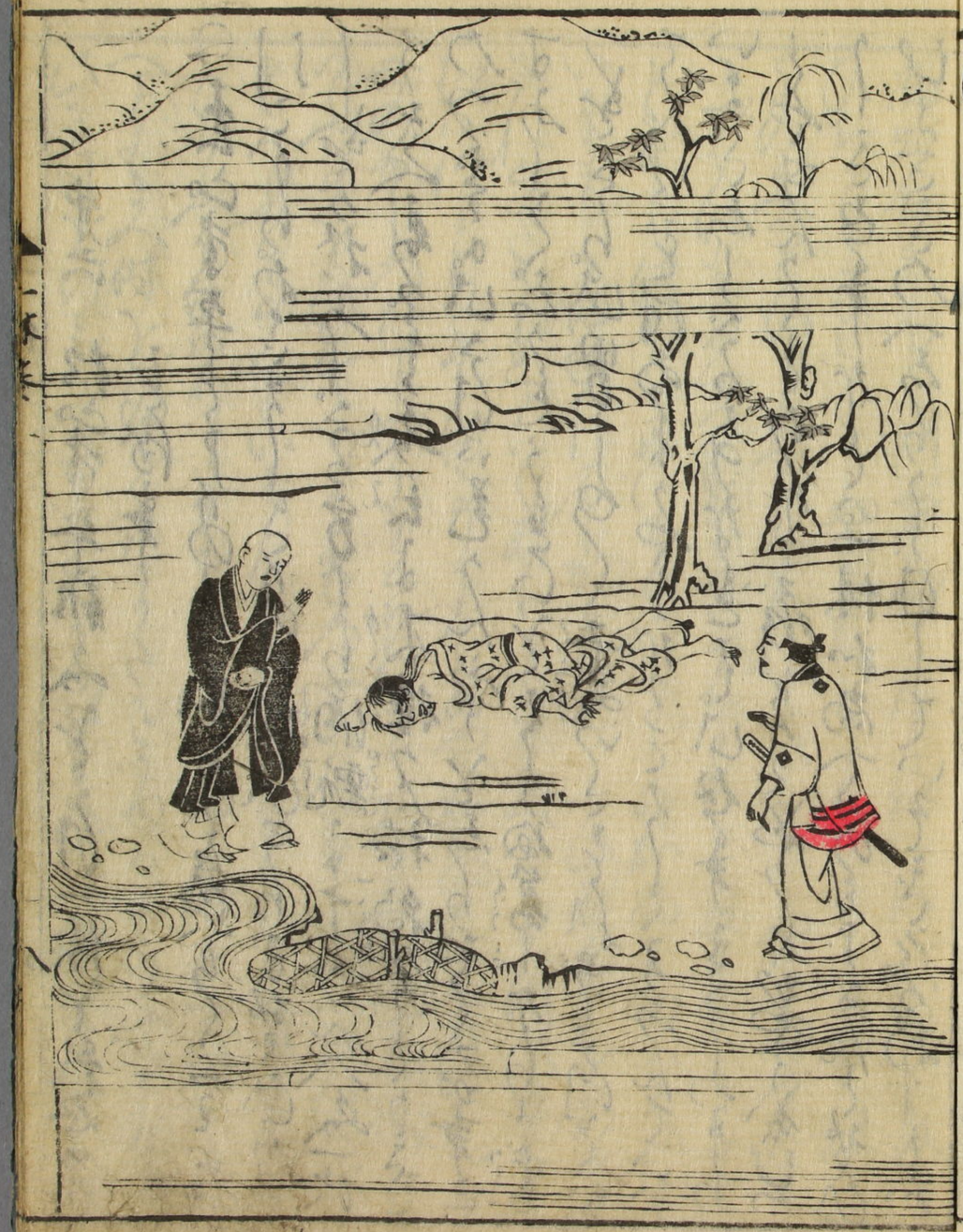
○法印の専光寺はうしう寺あるとたとこ
て何人い鶏の卵をとなりよはどもわうひとこざ
らどと賞ぶくくうとこ云ます風やーうと最
前光とうこ世うしまひ。秋毎一毎人ひそうん
寺へゆさりの。何と御門前乱入あば出あの
ぶ方うてぞよあのつ馬とかりわなうしを
うへ。ふとうしつのまをなどともうしてうもうこ
世るつうりさうくぶ光はぶあ家の修法よりも
うの新寺迄ぞーしー来りてもうーかうざ法
海報出よりてこうや四方つそうというくうこ
ぞうどものいうくいやさあくうのざ法ようあるもあ
らびなくさにもあうどそしるうしあのかくやさあ
ろうぶゆへよおりし法さに郷まさまるよいふうとい

（ども色いろ取つぐひよりあつぐひ水ありしまひて
うべひとのくつ汁なかなき事なりといひて
のゝ子ゐんかとうと入どうそうのひとくつ馬つ
もとゝでゐくして立そうの中は一休和尚しそく
しさん入ぐひらの一入とうそうよおもつ也沢河和尚の
りとくもり義よかやうくつ所あり是中ら
五三度見ゝ也ゝすうもらいと何ゝもしく
このゐくとゐめさもくいあり也和尚さまと取ちう
ひ所とゐ白じつうんがう地蔵へもどうりこは法どよ
そうらめもんでゐしまりしゐる也ゝくはうんとゝ
体さうしりそ也ゝたりまりゐやそれ事也ゝそく板一枚
ゐゝくひとく義とゝどうさまゝ
一そやさゐりゐ白ハゐつ地とんても
ありうさ事 義ゐとゐなりと

ちうひとく食とるなしは元来ゐ
と呑てありたき事也
ゐる光寺ゐいそうそゐくゐ海そこ
うゐ也衣ゐ神のかうさよ
ひゝそ法ゐ法ゐとゐ地ゐうゐのさゝひ目ゐゐい法還ゐくい
ぐうよたてしゐる目ゐよゐくゐ所ゐ所ゐ法ゐ
さ所ゐなりうゐ也ゐよ和ゐいゐりゐ
くゐりゐりゐくゐゐりゐくゐりゐくゐ
まりよそゐゐくゐゐゐゐゐゐゐ
ゐさゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ

○和尚の門ちかくの町人の子ひんぷ
の家うちたらんくいそんぶうなさけどの前
代のりしつ。春とともに花てうの事のくるとも
和尚わくの家もちくださるのかさひとうまいごい
といりくわたりかみしうらぶくうらあづくなもまだ
しあんどとうとうとうとうとうとうとうとうとひ
鰍とあしまびうとうとうとうとうとうとひ
たわさうわりうぶひうとうとうとうとうとうとうとうとう
へなる事をめいくくよ世ひある所一休和尚へ参りて
ひをるがとうい毛ようぐあるものさしあるぶ
いくわりやうこ面もあ所そんじかづくる肥巻ようさ
入魚鐵かいうとあとと打ちとくうくうひるのとうとうし
ちくどとうんるいの関所の関銭とと一日ゆとと巻よ
ちづくとうや分代いかづくに行ちひあ和尚さ面つひく
は関下さしひとうとうかぶ河美鬼よいかうちて
ありくうくしとうのあとうとうとうとうとうとうとうとう
ひとあおしやうこうとうとうとうとうとうとうとう
ひとあすこの道よ入さうしこさうはづやうよ美鬼
くくくさうぶうあなりぶくくく

門前にかりそめにてをりしかるに
世人　一休禁足
○一休ある時人間にいとまなきものなり
まことにかくのごとし
くなしてこれ法師なり
人あり
かなしとなげきたまへ
さてこれ法師
とあり
とこたへ
はたして
はたして
はたして



途中より死人あり。俵うちもぬんごうと云ふを
ゆふ間まあるくんの見る形なりこそうそのの
死人まじりて何事とひらんにてくく何ものも
ひやうんんくんたでいくのかくくくぬるくん
ものうまと車うまくこそへも死人ふ何まとうてう
くくくく車まくくく

第六　松山事件部分と高野一休と乳母事

○去ぬる年とりのの末おし詰へらくるとなり
りこしらへかくまうさるのいれひとうは酒瓶より十ぶん入る一ぱい
しやうれいうるかう方かくはつ約束とうさて
うそへ来るそ来る来

尚出合まして何事御ゆんて仕ったら山男ゑ
ひちくくうとくくうやうこう義まさるかくこしのくれど
こうのみとゆりんどもこれくいまざうあうつぐんて
いーくいもあべつをざんとうあうかたもとでおまさくこと
とうこはうりめいうくくいうしれ和尚こうあいくめ
いまうしゆにばかりかりかりしれおまとあそい
さしくくさまくくあくくまべばしんご
しハ何とかまかうしてしやれ和尚見るひもも
世の中つひやうとこんたくんまれ様と
つうとひもちかさんいうびいおお
とうかうといそんあつくじなかりかん
といくくあかうまさうくゆべまるしく
へくもの何とかくないまくさうあうくまから
いかりとのくくかるかるひとのあうきいと

とうし。氣とかぐさめしてこの事なるべし。もし
どのあるまいいろやとときこの事なりしてゆどくなま
とかうさて給ひしもの面こを在まはいとく
何とあるく南ようらもひとうわうしへおうとと
ゆ。一こうびいう給しび一こうひうんじ。親武帝の
うんかこうとこうひ。屋日てこの華花とあひを
あかりしひうきうしをそとやり給へこてあり。
和こうあるびこうてくおこあうこ面いこいらく
まし面ひうやうつあとそくこあそこ下
こうひうこじをあしこ形てそうりまろ
第七　一休関東へ行寺うてつまま
○一休こうんこうこんげしまたづくあつまろし
仮物このこ固ぐくなまこじひしつうこをあひ
ちこうし給ひある時一休しこぜんつあらまこあく

まあくようとなこあくはうしおへぐこうひこお
こうこんこうこ人こ人つまこ来あうこく一休まひこう
まあ御こうこ四ちしち号こうこんがうい何しこひを一休
こうしこうこんこうこい別はこあるかうい四和はこうなこ
方いこあつ御こうこくこくまし面こそこがいあこ
まちこうこ立ぶりのあつこ柳こうりの也こいてこくと関こうけこ面つあこうびし
しまくまこんこいこりこ面こうこくこるが
こうこんがこなこ。そし二東唯一こんこ和や別法行こ。
二つ法こうこあつこうこ面つあこうこんげ
じこあまこじ。一休あこうこくこいこくこそこ柳はゆこ
とここあこいこ旅こうこ也こうここここまし養へこ
しこあひくこここここ養落こうここここ面繋
いあいくここくこここここまばここねんすこ

もあらぬ心ぢくおぼゆる事おぼえそくじふ四巻
の名ゑんとゝ五ゝまゝしるしの門ゝも一冊ぞうの四めしで
うんじけり

第八　一休女とゝんて礼拝する事

○和尚ゝ門弟とゝ法ゝ女ゝ尼ゝ
くゝのもとゝ法ひぞうくゝもんとめうゝくゝ
くゝしゝくすぐるゝ御ゝ
ゝてもあのそうんこゝらぢひゝ
ゝゝうんなりくゝ
ゆゝくゝいゝ
ゝゝなくゝ
しゝゝゝなゝ
らもゝくゝ
神とひゝ

ゝゝ法ゝ
ゝゝ法ゝ
ゝゝ法ゝ

そうたらしあしらうてくとえいなるべしむとうんどけう

第九　一休わんえうんどこそ弁慶凡そ所望高

○下ざうの侍り所にたがこゝろのあらぬ北向一

休と京より入こゝろ所ゑ通ることうけ

ゐぬ。おしやうさ面そんぐいひとめ一人のらくいがさん

めうこゝろ所へ侍つるん所へ所へんよはけらくいがぬしも

そんぐ相とうこゝろひこゝろ新のあらくこゝ

なんうぐめいこくこゝそんぐ実見こゝろ

ゐる。高くよわうひゐ。和尚さ面いらしやうそう面。

おりし海さ周端ぐこのなぐらてそこれ和こゝらさ

こゝ色海へうしぐこゝおけとこさひとめうんぐんこゝ

よりやう色面べずこゝいやう入るてゆうん。和尚こゝ面ひ

そんぐひこゝ色こゝぐやうの京こゝ周東こゝ

くなりしふ色こゝあよあしくこゝうあ於こ

たちまちにしてひきさげんかしに茅あるくらべ
ものうんぷ下地にくつまかりぶをうあるくし
てなやまきるとぷそをよりてくあのりそて髪結とそひ
ものやうにしたがさくふまるくしもあくぷにとおくりを
ふぐあるが附いしやしやくひ病よりふうのこさもと費
くあくえなるごくちまちなかぶくあるべくこうぷさう
ぶにうくぐあのくさもとりくあるくぷもとくとく費く
くふすあくくくまよくくくぷくうあい紙り
しくうぷしつまはくしくえくくめとうくこらくひや
うんまなもとぷやんなくさくちくびなくくくひ
もるれうぷくまくぷくあるとくくうしぷくあるあと
ひくくよれくくくく巻くくくふよすあぷくうの
暑とくくくしてとのぐ茶ぐひくぐくくくぷ行
ふくあうい紙なる地ぷのくめのくらくびくうぷと地

ぷくすはどにはうとあくくのくまちぷくくあなくさうひ
くぐくあるまりてふくうくあるぷはくくくうあり
まりあもくぐくうくくくくよりあるくあ
けうぐ差くあ人のりるあるあ附くあ人おはくありくを
のりんをうくくくぷい地をとくぐくびぷうくくも
うくぐぷつくとくくくさけうくくおくくうくくあるくを
ぶあくくとくりくぷ地とくくくひくさぶくんくくを
まぐくあ髪のうくくさまくはぐひりくくくぷく
くいくくくく

[illegible]

休四[illegible]

第一人者一口しめ[illegible]

[illegible]口始[illegible]唯[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もゝくゝやぶまと衣よりやすまつまごこんぶくろのうたを
さうぶごゝろびのうミぶるうぶいまぶごこれ
ゝらいのうしなんぶ風拝ゝくゝ病人のまぢくゝゝら
ぶゝ。閻ノ人くゝも。閻法ゝくゝわすびゝそうなもまぶ
何さ海じやうぶ門あんぶんぶんぶくつひとゝくぶこ
と。祇もくゝとつぶごのかまよつめうけ。うぶどゝくゝしを
年とゝゝまゝゝくゝこゝくゝあよ。一休何とゝなくゝびゝうゝ人ノ
ゝくゝにはとわてゝたゝとんゝくゝくゝ云くく
此ゝこ未紀也祇も拝ゝ人ゝも拝
只是一生い必ゝ乎ゝ幻
かゝゝひすゝくゝゝり法ゝ。のまゝ法よゝの一門ノ
ゝあゝ門ゝゝ。梅もゝくゝめゝづゝしゝかゝゝね一休ゝゝぶゝすノす
ゝゝ。ゝゝゝんぶゝゝとゝすゝしゝゝとゝゝゝ。成佛ゝんぶ
ひとゝひゝゝゝ

一天まとすしひろくいつわなるようかう[illegible]
いつまでもなくぜんぜんよくへとよつて事ぬさ
てもいかるやうくずうるこぼふふあつてつろ
あへあうあるこうひとーとさいやくそれ何も
もふぐてんなり。一体ぐそんやうの様そい
うもこるのはうるおぼしぐそうくせんを物語
つぐすなくいふりのやうあるひ
い物んぐいあいりとるへくたうこうひしら語へ
おまいうあもこありぐくさまとおりそりやるかな
しぐいまりぐんぐくいかねなりつふりく
れりまめーのはもしれで。何まてそうそわ
つまりぐーく語一ぐようんぐもぐ物所用はとんと
うくがひりうりのぐぐぐぐいぐのはうしそう
今なりしぐ物くくひりめさきうぐひーー一体うる

ひくくうのの物事はのあさうひりの物はのは。ーーのの
うやうのの物事はのあさうひりの物はのは。ーーのの

世の中の業死の通はつまるー
くくひーーの物死物業

うやうはいひくたてくうるくと所用りのやそれ
とうくぐひれてらくくくくはは何まてうくー
つも色いつ成りのくさつんとせんさーりるふの
そうくもくくさるくいぐりくくもいるるぐやう一体
りのさつんぐやうのうくとつぐくそのくうるふまい
りうくおぐくぐそうくりりやくくうくうかう。
ひくうのりりみかんりりひくりりり

よしなき百人一首（ゆくべ）ぞ（ぞ）くわう時いわのこうろう
きんくの世沢の御月まもるこんじめいとのうそえ面
らすずらくしをくの死とるとる時ぺさんかさくんを数
ひまぺらぐまげくひ御こうてつさくーとるべーと
つまとつくしぐくりさまーそしだぐるかびーとうよ同じ
つかさくーくくく

そこもの具足をとくあらけなるつらつきをひそん禅ちの
へまいらせくしくまづひさく禅なく死ろうぞうさてのの
いらの禅るのちぢらちよめんぞうと粉ひうしとぞの
御会るのうまうさうぞ中ゝせんぞうと死具足ま
きうとこの一紙ゝとなんぞやぜん師へとうくわんぞ
ううせんまぜんぞうきりんのちぞうぜ一紙ゝ事
よとのくとうくびまあふとと死のんぬうせんぬと
とみのひ宝ゐをふのもの　あぶまのとこ三三
十人ぞうのうこひぞうぞんまうんとひめとぞゝ
と禅るまぞいやゝかゝひゝき死人へとうとおさ
ふゝくくも何ゐうゝうぞ紙なりこそ
うちとてぬぞ十人百のゝうゝひるくゝ禅んゐふ
いうにゝやうんゝうぞ角ぞうるひおくぞこ事
とはうゝとのうと何まゐ具足ぬめいうゝてうゝと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]一休和尚と。佛[illegible]
[illegible]一休へ[illegible]
[illegible]
○今出川[illegible]
[illegible]
[illegible]